

オフィス町内会



会報 カーネーション号

発行日 平成12年5月14日
発行 オフィス町内会事務局 代表・半谷栄寿(東京電力)
連絡先 〒108-8537 東京都港区芝浦4-6-14 東電環境エンジニアリング(株)
オフィス町内会事務局 実行本部 TEL03-3442-0408 FAX03-3452-4815
編集 編集 編集 編集
オフィス町内会事務局 副代表・榎原誠 TEL03-3452-4815

ど こへ?

リサイクルご意見番より
どこへ? を考える会議
4つのメッセージ
エコ・ミーティング



環境の21世紀
資源循環型社会構築へ
リサイクルの輪を
拓げよう

利害を超えた パートナーシップ

太田原秀義 資源新報社代表取締役社長

わたしたちのリサイクル活動・リサイクル社会・リサイクル型ライフスタイルはどこへ向かって行くのだろうか? リサイクル製品の普及、資源の再利用、廃棄物の分別回収など、リサイクルのシステム、リサイクルのルール、リサイクルのマナーは社会に浸透しつつあるように見受けられます。その動きがより広く、深く、浸透していくことを応援するエールとなるメッセージを送ってください。古紙だけでなく、リサイクルというテーマを広くとらえたお話を聞かせ願えばと存じます。

ゴミの処理費用よりコストが高いリサイクル、つまり経済価値のないリサイクルは、リサイクルとはいえません。「何でもリサイクルすればいい」という考え方は間違っています。経済性のあるリサイクルにするためには、官民の役割分担が必要です。リサイクルは、あくまで民間が行い、地方自治体は民間のリサイクルが円滑に進むための支援を行い、国は制度づくりをする。今のように、行政が先にリサイクル施設を作ってしまうという方法では、いくら税金があっても足りないでしょう。もう一つ大切なことは、リサイクルに関わるすべての人、そして次世代の人たちが希望を持てるしくみを考えることです。一つの試みとしては、1998年10月に設立された、新聞リサ

イクル推進会議があります。新聞社、洋紙メーカー、販売店、回収業者、問屋、そして関東7都県市という、官民協力の新聞と広告の関係者が一堂に会し、経済性のあるリサイクルを進めていくという会議です。利害関係がある、まとめるのは大変だけど、みんながパートナーに満たない先進国が、全世界の80%の資源を使っている今、21世紀を環境の世紀にするためには、利害を超えたパートナーシップが必要でしょう。



特別寄稿 4つのメッセージ

拝啓 ご意見番の皆様へ メッセージをお寄せください



謙虚
なくちや

再生医療と謙虚な心

横井弘海 フリーアナウンサー・ジャーナリスト

21世紀の医学で、科学者や医師が要求されることは、合法



もてなす
心で
リユースライフ

もてなす心で リユースライフ

崎田裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

入れたてのコーヒーと、焼きだてのパナナケーキ。お客が絶えない友人宅のおもてなしメニューはほとんど定番ですが、食欲をそそる湯気、いい香りと味わい、食器の趣と弾む会話など、

五感の刺激やひと手間かけてくれたおもてなしの心が伝わって、何十倍もの美味しさにかわります。

もてなす心、人とのつながり、食や物のいのちへの愛着、くらしの充実感。そんな心を大切にすれば、まず無駄な買物はしないし、何度も大切に使えるリサイクル容器を選んだり、自分が使わない物は譲ったり、壊れたら修理して長持ちさせたりと、「リユース精神」がどんどん広がるはず。

捨てる前のリサイクルはもちらん重要です。けれど、その前に実践するリデュース・リユースと合わせて、まずひとりひとりのくらしから「ごみゼロ社会」を創っていきたくですね。



供給に
限界設定
を

供給の限界

横島庄治

NHK解説委員・高崎経済大学教授

生産者と消費者が、それぞれの欲望に任せて行動するのがマーケットであり、それによって市場経済が成立してきたが、20世紀は最終段階でそれに待ったをかけ、循環経済という新しい原則を提示した。

その新しい原則を支える基本コンセプトである。その結果、そのひとつは欲望に任せられた消費そのものの抑制であり、もうひとつは市場経済にあえて反し、生産・供給に限界を設定し、消費の抑制と歩調を合わせることである。

このことは産業素材の有効活用を達成すると共に、資源やエネルギーの節約と延命に資することは疑いない。例えば電力。夏の甲子園が熱狂する或る日の2〜3時間の為に、我が国の電力政策はどれほどの投資と犠牲を払ってきたことが、その結果、夜間の発電所の稼働率が半分以上という無駄が生まれている。

「パラダイム」ある時代の人々のもの考え方を根本的に定めている認識の体系、思考の枠組み、模範

社会的、倫理的であることだという。

あと数年のうちに、「ヒトゲノム」、つまり、人の遺伝子情報は解明され、医学は飛躍的な進歩を遂げる。クローン羊が誕生した後、クローン人間の研究は法律で禁止されたが、人間そのものは作らないとしても、その技術を応用して21世紀には、「再生医療」という言葉が一般化するようだ。これだけ医学が進歩すると、人的欲求はますます高くなる。子供がどうしてもできない男女の夫婦だけでなく、男、女、カップルが、なんとか私たちの赤ちゃんと今の医学で作ることを可能にしてほしいと願ったという話が米国であった。それは純粋な気持ちから出ている、許される事だろうか。

と真剣に考えてしまった。文明が進めば進むほど、人間の謙虚さは試されるのではないだろうか。リサイクルも同様、技術やシステムばかりの問題ではなく、謙虚なところがその在り方の本質を左右していくのだろう。…なんてネ。

「ヒトゲノム」人間のDNAとそれに書き込まれている遺伝子情報のこと。ヒトを始めるすべての生物は同様のゲノムを持ち、姿・形をつくる情報や病気と深く関わる情報が書き込まれている。数年後には、ヒトゲノムに書かれているすべての情報が読み取れる見込みとなっている。

イベント出展カレンダー

NEXPO2000

2000NEW環境展・東京会場

5/30～6/2 東京ビッグサイト

日本最大規模のリサイクル展示会「2000NEW環境展（廃棄物処理展改称）」が、オフィス町内会も恒例により出展。会員企業のみならず、お出かけください。オフィス町内会のブースのみならず、これからの時代に生かされるさまざまな環境情報に触れることができるチャンスです。この春入社された新人の方々も、ぜひどうぞ。会員のみならずには招待状を送ります。



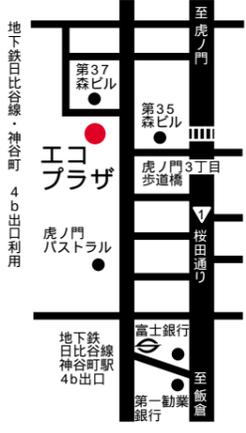
7/22のオフィスが参加して行われています。

エコ・オフィス・フェア

MINATO 2000

6/2～6/4 エコプラザ

港区のリサイクルイベントに、エコ・オフィス町内会活動の拡充のため、古紙分別回収と白紙度運動について出展する予定。
日時：6月2日（金）～6月4日（日）午前10時～午後4時
会場：港区立エコプラザ 東京都港区虎ノ門3-6-9
入場料：無料



地下鉄日比谷線・神谷町 4分出口利用

適

1年かけて検討

正な料金体系を

参加オフィスの生の声は？ 事務局への注文は？ などなど、今更にあまり話されてこなかった課題について話し合う意見交換会が3月22日に行われました。関係者が一堂に会し、本音で語り合った2時間ちょっと。こんな話が出ました。

まずは、平成11年度の現状から。総回収量は、34,000BOX、680トンになる見通しのこと。回収品目別の構成比で見ると、上質OA用紙2%、上質コピー用紙15%、再生OA・コピー用紙5%、新聞26%、雑誌その他が52%でした。10年度実績と比較すると、回収量が16.6%、金額で14.3%の伸びになります。参加するオフィスが支払う回収料金は、1BOX当たり360円。1BOXには20キロ入るので、キロあたり18円。東京都標準の事業系ごみはキロ当たり28.5円なので、町内会の方が10.5円、全体では年間714万円お得です。

現在、この18円のうち、事務局経費キロ当たり4円を引いた14円が回収会社に支払われていますが（平成12年度から事務局経費3円、回収経費15円に変更）さて、この金額について回収会社からは…？

料金、作業面など 苦労が多い！

オフィスごみの有料化に伴い、古紙発生量の比較的小さい事業者にも、町内会の古紙回収に参加していただく、という主旨で始まった「エコ・オフィス町内会」。現在、千代田、中央、港の都心3区で722のオフィスが参加して行われています。

10キロまでは無料回収になっているが、10キロまではいくら、と最低料金を決めてはどうかといった意見や提案も出されました。事務局では、適正な料金体系を維持するために、今後1年かけて参加するオフィスのニーズも考慮しながら検討する姿勢を示しました。

トピックス

生活視点のリサイクル

教科書

本紙にメッセージを寄せてくださった崎田さんは、生活者の視点から循環型社会づくりをテーマとした講演・執筆活動をなさっているジャーナリストです。環境庁登録の環境カウンセラー、東京都環境学習リーダーとして環境学習の企画運営に関わられたから、「こみ減量のための行政改革を考える会」委員を歴任。自治体や財団の環境関連専門委員を多数務めている。「元氣なこみ仲間の会」事務局局長、新宿環境情報ネットワーク「発起人代表」そんな崎田さんが生活者の視点で著わした本2冊をご紹介します。

「こみせ口東京が見えた日」

B6判 222ページ
発行 1999年5月20日
定価（本体1524円＋税）
発行所 株式会社日報
電話 03-32262-346（1代）

キャンセルの連絡は確実に！！

また、回収会社の大きな負担になっているのが、回収に伺っても「今日は結構です」というケース。最近、目立って増えてきたということで、キャンセルの電話は確実にほしい、という声も上がりました。中には、「サービスの環として、前日に必ず電話で確認を取っている」回収会社もありましたが、キャンセルの際の連絡については、事務局で再度各オフィスへ周知徹底し、ご協力をお願いすることとなりました。

3区合同エコオフィス町内会ミーティング

- 参加者（敬称略・五十音順）
- 回収会社 新井商店（広沢清浩・水島潤） 飯田紙業（熊本均史） 高山紙業（高山秀泰） リサイクルサービス（戸川秀彦）
 - 行政 千代田区（長谷川博明） 中央区（山崎勝俊） 港区（野村みどり）
 - オブザーバー 富士ゼロックスオフィスサプライ（定島茂文） ダイナックス都市環境研究所（佐久間信一）
 - 事務局 緒方毅・田村敏子

PRがこれからの課題

行政側からは、PRについて「広報などに掲載されると、問い合わせの電話が結構来る。電話があった事業者には資料を送っているが、そのうち入会するのは10%くらい」という現状報告がありました。PRについては、これからの課題として取り組んでいくことも確認。さらにエコ・オフィス町内会を広げていくために、またこの機会を持ちたい、ということでお聞きになりました。

普段なかなか聞くことができない本音や意見が飛び出した意見交換会でした。さて、会員の皆さんは、どのような感想、意見を持たれましたか？皆さんの声をお聞かせください。

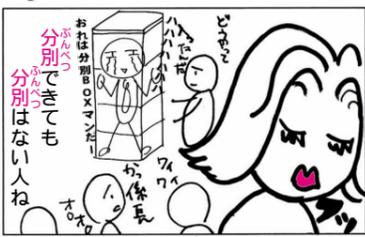
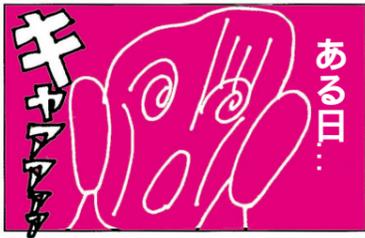
FA X 03-3452-4815
(レポーター・山懸美幸)

事務局通信

新聞古紙と折込広告と一緒に回収されるようになりました。これは、今回登場していただいた太田原さんのメッセージにもあった、新聞リサイクル推進会議が昨年の10月に結論したことで、画期的なこととして新聞等で報道されました。再生資源のより一層の有効活用に向けて、関係各業界がパートナーシップを発揮したことで実現したこの新しい分別方法は、私たちオフィス側にもより適合した新ルールといえます。

横島さんのメッセージにあった、真の循環型社会の実現に向けたパラダイムの転換、供給の限界、設定が世の中に定着していくのもこうした取り組みの着実な積み重ね、関係者の協力があったことに違いありません。ご意見番の皆さん、メッセージお待ちしております。

ななくん



回収コストを圧迫する。現在、

